

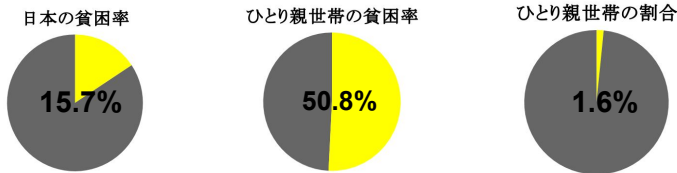
日本は貧困なのか

理系D-6班

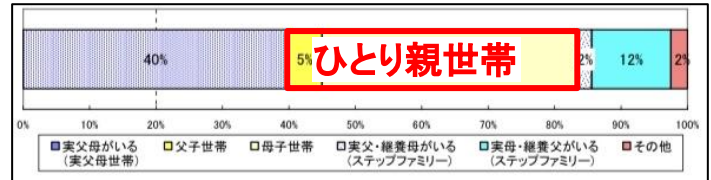
序論

「貧困は外国で起こっている問題」、そう考える人は多い。しかし、現実として日本には貧困で苦しむ人がおり、それに伴った問題を抱えている。今回は、その中の児童虐待という面から日本の貧困の現状に気づいた私達が、貧困を減らし結果的に児童虐待の減少のために必要なことを模索した。

調査1 日本の貧困の現状について知る

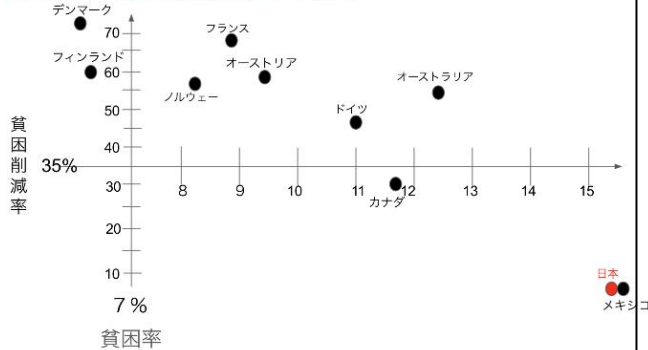


被虐待が生じた家庭の世帯類型別グラフ



調査2 OECD加盟国内で比較する

貧困率と貧困削減率の関係



日本を海外と比べてみる

貧困率が低い国は貧困削減率が高い傾向がある。貧困を減らすためには所得再分配を見直す必要がある

実際にどのくらい税金を払い社会に還元されてる？

調査3 貧困削減の鍵は所得再分配

同じひとり親でも父親のみの世帯の平均年収は420万円。また母親のみの世帯の約半数が非正規雇用であることから、母親世帯への経済的支援が貧困削減のために必要

年収約240万円の母親世帯の場合

月収約20万円の内訳 (小学生1人の子供)

児童扶養手当: 月10,180円
児童手当: 月10,000円
養育費 (宮城平均): 37,000円

母親自身の手取り勤労収入: 約140,000円
(内保険料・国民年金: 約10,000円)

まとめ

今回の調査で、児童虐待について調べていくに連れ、その大きな原因である日本の貧困問題の壁に気づいた。貧困の調査を進めるにつれて、日本の世帯の中で母親のみのひとり親世帯が最も貧困であることがわかった。次に、貧困削減率を見ると、日本ではたいてい貧困の家庭が貧困のまま暮らさざるを得ない状況に陥っていることが見えた。貧困率の高さは、その国の経済状況だけでなく貧困削減率が深く関係していることがわかった。そして、その貧困削減率を上げるために必要なのは所得再分配の改善である。これが、日本の貧困のみならず、近年重要視されている児童虐待の発生を防ぐ鍵だと気づいた。

考察

日本が世界の中でも貧困率が高い理由は 社会の手薄なセーフティネットだと考えられる。今の日本の状況では、普通に生活をしていても、病気や大きな事故によって、税金を払っていたにも関わらず手薄な生活保護しか受けられない人も多い。貧困率の高い国は GDPの成長率が鈍くなることも知られている。その上、児童虐待が多く発生しているのも格差社会に多い。児童虐待を減らすためには、この格差社会をなくすことが大事なのである。見関係のないように見える社会問題も、貧困から起因しているという共通点があると考えられる。SDGsへの認知が日広がっている今の日本で、今一度貧困削減の重要性が伝わってほしい。

参考文献

平成28年度全国ひとり親世帯等調査の結果 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000188138.html>
「母子家庭の平均年収・収入はいくら？シングルマザーの貧困理由・貯金術など」株式会社プリンセススクエア <https://www.single-mother.jp/recommend/savings/>
「わが国税制の現状と課題—21世紀に向けた国民の参加と選択—」要約 内閣府 <https://www.cao.go.jp/zei-cho/history/1996-2009/etc/2000/zeicho1.html>